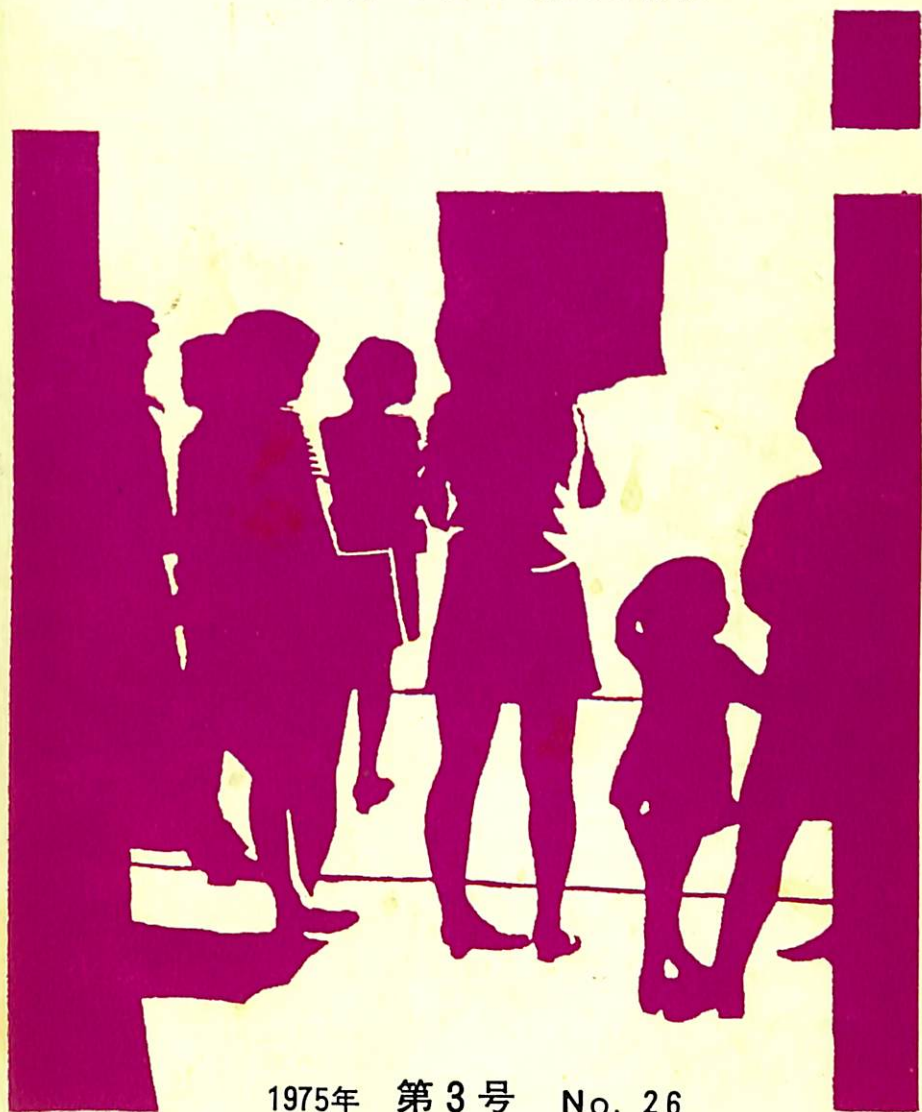


新時代

視覚障害に関する研究と情報



1975年 第3号 No. 26

現代人の現代的教養

岩波新書



一冊230円

白内障

桑原安治著

眼科の歴史は白内障手術の歴史だといわれている。眼科の權威がこの国民病といわれる眼病の病因、薬と手術法の発達等を平易に語る

世界の自然を守る

藤原英司著

絶滅の危機に瀕している動物を救うには様々な苦勞が伴う。国際的協力のもとになされて

地震と情報

宇佐美龍夫著

地震情報の理解の仕方、地震発生法の則性の有無、予知の科学の現状など、基本的問題と

放射線と人間

舘野之男著

医学の立場から驚くべき発展をとげた放射線医学。その蔭にあった幾多の犠牲を教訓に人類の将来の危険性をいかに克服するか。

嗅覚の話

高木貞敬著

においに関する脳神経系の生理学を平明に解説し、その生体には及ぼす影響を広い視野から明らかにする。悪臭公害問題にも論及する。

社会保障

第二版 坂寄俊雄著

各国制度の生成発展史のなかに社会保障の存在理由、本質を見きわめ、わが国制度のあるべき姿を追求する。今回現状にそくして改訂

生きるとは何か

島崎敏樹著

生涯の幕あけから結び迄の「ひとの生涯」の生きることの意味を、心のめざめ、居がい、行きたい等と系統的に発掘しその正体にせまる

文明と病氣

(上下) シゲリスト著
松藤元訳

人間が火の利用を発見し防寒に動物の毛皮を使用することを覚えた時から現代迄の、文明と病氣との相互作用を古今東西にわたり論述

夢

第二版 宮城音弥著

脳波その他の生理学的研究の最近の成果に基づき、夢みる作用の本質的解明と夢の世界の分析を総合する立場から全面的に書き改めた

岩波書店



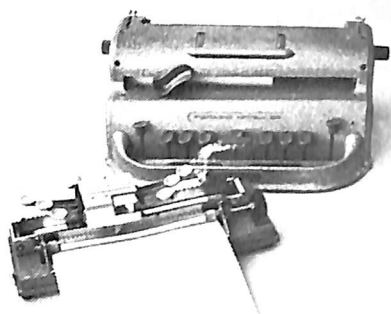
東京千代田一ツ橋
振替<東京>6-26240

盲 人 用 具 〔 I 〕

盲人用具は、製作個数が少ない、手間がかかるなどのため、免税措置があるにもかかわらず、割高となっている場合が多い。また欧米においては、多くの種類の用具が開発され、利用されているのに対し、わが国においては、その種類が少ない上に、独自に開発された優れたものがわずかしかない。 ↓



盲人用テープレコーダー、標準点字器、ダイヤルスポット(右下)。
ダイヤルスポットは、任意の数字の穴にはめこみ、目印とする。

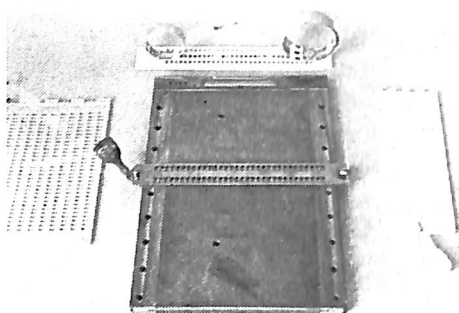


点字タイプライター 上はパーキンス
ブレラー（米国製）点字が上にあるので、
打ちながらの確認が容易
下は俗にカネタイプといわれるライ
トブレラー（日本製）点字は下にある

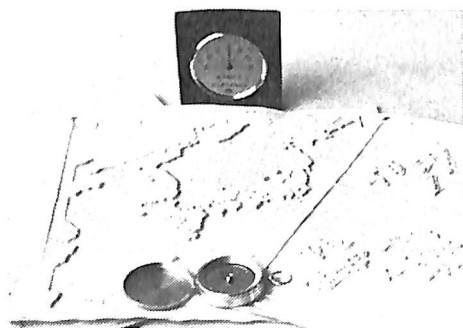
盲人用カナタイプライター。正眼者用の通常のタイプライターで、ガイドキーやスケールなどに点字による表示がある。また紙の終了を知らせるブザーのついている機種もある

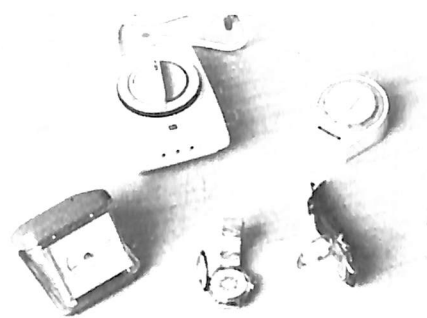


各種点字器。中央の標準点字器以外に
プラスチック製やアルミ製の懐中点字
器がある



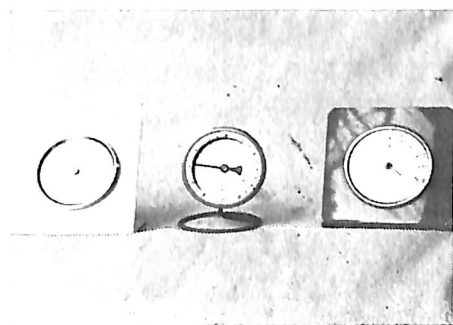
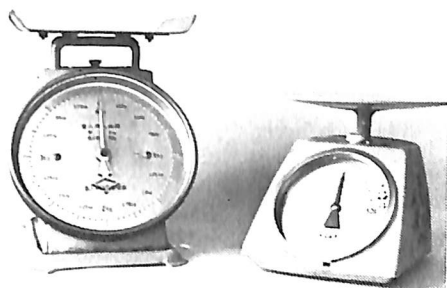
盲人用地図、水平傾斜計（上）、方位磁石（下）。地図は東京都地図（4枚組）と日本全国地図（12枚組）がある





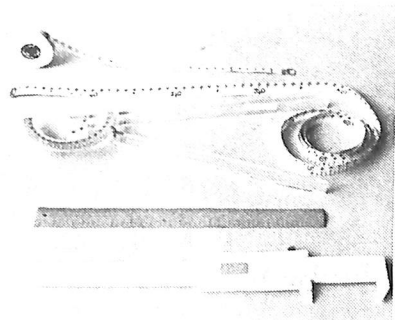
各種時計類。タイムスイッチ(12時間用—左上)、60分タイマー(右上)、旅行者用目覚時計(左下)、腕時計(中・右下)。それぞれ所定の時刻を示すところに突起がある。

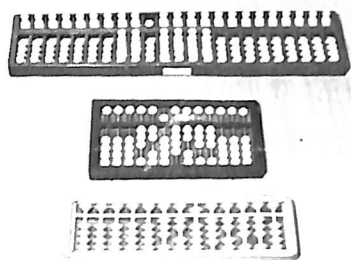
家庭用自動土皿秤4 kg用(左)と2 kg用(右)。



温度計(左)、液温計(中)、湿度計(右)。液温計は目盛盤の後ろについている棒を液体の中に入れて計る。

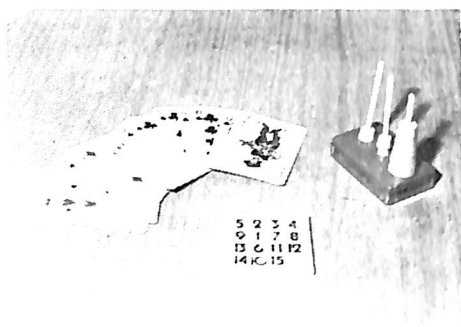
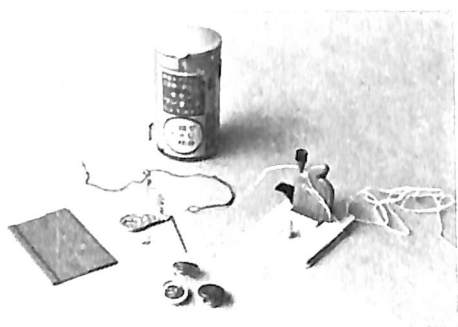
上から、巻尺(150cm用)、メジャー(150cm用)、関節角度計、ものさし(30cm用)ノギス。





上から、盲人用ソロバン（日本製）、クラマーアバカス（米国製）、マクネン・クソロバン（日本製）

ポット（上）、硬貨見わけ板（左中）、簡易糸通し器（ドイツ製—中—イタリー製—右中）、ヒンニングボタン（下）。ポットは容積 140cc で、ひと押しすると 5 cc だけで、倒れてもこぼれない。硬貨見わけ板は溝に硬貨を入れて見わけける。



トランプ（左上）、バラモンの塔（右上）15ゲーム（下）。これ以外に、囲碁、将棋、連珠などの娯楽用具も開発されている。

↓そこで今後とも、テープレコーダー・時計・タイマー等に対する日常生活用具購入助成や補装具交付のような経済的援助と用具の積極的な開発が、行政の側に望まれるのである。しかし、いかに優れた用具が開発され、無料で提供されたとしても、最終的には盲人の側の積極的な利用と、その使いこなしが問題となってくる。その意味では、用具の正しい利用法についての指導とアイデアの交換の場が必要であろう。

写真と文・早稲田大学大学院（社会保障専攻）清水英彦
撮影協力・日本点字図書館

目 次

1975年 第3号 No. 26

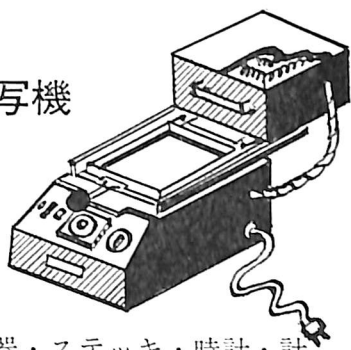
2 ページ評論 重複障害教育への新しい道……中島 昭美…	2
盲導犬、そこに見る福祉……………	4
実践とところみ	
点字情報処理における漢字入力の研究……長谷川貞夫…	13
漢点字の開発……………川上 泰一…	18
物理的環境と視覚障害者（下）	
……スウェーデン ICTAインフォメーションセンター編…	23
インフォメーションコーナー……………	35
この人 点字の体系化と普及に尽瘁された沢田慶治先生……	39
質問に答えて……………	43
施設紹介 光道園は大きかった……………	45
進学・就職……………	49
内外文献紹介……………	51
編集後記 ……………	55

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

サーモフォーム点字複写機

熱と真空成形による



この他、点字及びビテープ関係機器・ステッキ・時計・計
量器・タイプライター・地図・ゲーム・盲人福祉関係書
籍なども取扱っています。

社会福祉法人 **日本点字図書館** 用具部

〒160 東京都新宿区諏訪町212

TEL (03) 209-0241(代)

振替口座 東京44522番

編 集 後 記

日本盲人福祉研究会叢書シリーズ第2弾として、「働く盲人たち」を発行しました。
第1弾の「この子らとともに」(盲学校教師の実践記録集)とともに御愛読下さい。
叢書の刊行には会の浮沈がかかっており、皆様の絶大な御協力をお願いいたします。内容については自信を持っておりますので、皆様の周りで、視覚障害の問題について関心をお持ちの方がいましたら、本書の御購読方をお勧めください。併せて本誌の普及にも御協力下さるようお願いいたします。(田中徹二)

新 時 代 1975年 第3号 №26
年間購読料 1,500円(送料とも)

発行日 1975年7月1日

発行者 本 間 一 夫

編集者 田 中 徹 二

発行所 日本盲人福祉研究会

〒532 大阪市淀川区塚本3丁目12番
6-301

電話 (06) 309-2100

振替口座 大阪 40270

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13
電話 (622) 1925番(代表)

協賛団体 **日本点字図書館**